



銀も黄金も



かねこ としこ

父さん、ひどいよ

家を飛び出し、まっすぐ歩いて行くと、そこは一面、黄金色に輝いていた。

「父ちゃん」

「源太、あっちに行っときなさい」

「どうしてさ」

「収穫のじゃまだ、いたずら者、こらっ」

父ちゃんは持っていた棒でおもいきり、ぼくのお尻をなぐった。

父ちゃんは、農業に誇りを持ち、仕事にはとても厳しい。

「イターッ、ヒリヒリするよ」

ぼくは、とぼとぼと歩いて帰った。田んぼ道を曲がると家だ。

家に入ると、だーれもいなかった。

みんな、今は忙しいんだ。

ここ新潟はコシヒカリの産地だからだ。

「コシヒカリ、たくさん取れる」

そうつぶやきながら、ぼくは、米びつに手をつっこんだ。

父ちゃんの作った、真っ白いお米がサラサラとこぼれていった。

やさしい母さん

カギをカチッと開ける音が聞こえた。

そこには、母ちゃん的笑顔があった。

「あ、母ちゃん、お帰り」

「源太、帰ってたのかい。すぐご飯にするからね」

「お腹ぺこぺこだあ」

母ちゃんは、おひつから、少し冷たく光る、白銀のご飯を茶碗によそってくれた。

「たんとお食べ」

ぼくは、家の鶏が産んだ卵を割って入れて、しょう油をたらして混ぜた。おいしそうな色だ。ぼくの卵かけごはんなんだ。

「いただきまーす」

食べ始めたところに、こわい顔をした父ちゃんが帰ってきた。

ぼくは、びくっとして、ごはん茶碗を落としてしまった。

バチーン

父ちゃんが右ほほをビンタした。

「大切なお米をなんと思っているんだ。ごはんは後だ。反省しろ」

ぼくは、泣きたいのをこらえて、二階にかけあがった。

やさしい母ちゃんの声が聞こえた。

「そう怒らなくてもいいでしょう」

ぼくは涙を右手でそっとはらった。

コシヒカリ

父ちゃんの怒りは、秋の収穫の間、ずっと続いた。

母ちゃんは、ぼくには特別に、真っ白なごはんをたくさんよそってくれた。

さあ、のぼりがヒラヒラと風に揺れはじめた。

『コシヒカリ、新米、あります』

いよいよ、全国に、ぼくの家が作ったコシヒカリが売り出された。

父ちゃんの顔が日に日に明るくなってきた。

黄金色の田んぼは、今では、だんだん雪化粧をはじめた。

チラッ、チラッ、チラッと時折、粉雪が舞っている。

これから、一面が真っ白になる冬がやってくる。

ぼくは、黄金色の季節より、真っ白の銀世界の方が好きなんだ。

だって、父ちゃんとスキーに行けるからだ。

ソリですべったり、父ちゃんと思っきり遊べるんだ。

怖い父ちゃん、楽しい父ちゃん、どっちも大好きさ。だって、ぼくの父ちゃんだから。

そして、いつもやさしい母ちゃん、真っ白なお米をいつもおいしく炊いてくれて、ありがとう。

それにさ、父ちゃんと母ちゃんの作ったお米だもんね。

田んぼ道をはしゃぎながら歩いていたぼくは、ツルと何かにすべった。

「イタタタタタタ」

田んぼの中に墜落して、足をくじいてしまった。

幸せの色って

だんだん外は暗くなっていく。

白い粉雪が妖精のようにハラハラと舞っている。

「お腹すいたなあ」

何時間、うずくまっていたらろう。

「ウウウウ」

涙があふれてきた。

遠くに小さな明かりが光った。そして、小さく声が聞こえたようだった。

「源太ーっ」

「源ちゃん」

父ちゃんと母ちゃんの声だ！

助かったと思ったとたん、ぼくは足に激しい痛みをおぼえた。

「ここだよー」

父ちゃんが走ってきた。

「源太、大丈夫か」

「父ちゃん」

ぼくは、思いっきり泣いた。こんなに泣いたことないぐらい泣き声をあげた。

母ちゃんも涙声で、

「源太、よかった」

とどろだらけになりながら、ぼくを抱きしめてくれた。

家族三人泥だらけでしっかりと抱き合った。

薄汚れた頭や肩の上に、真っ白い雪がハラハラと落ちてきた。

「さあ、おぶされや。お前がいなくなったらどうしようと思ったよ」

父ちゃんは、満面の笑顔でぼくを田んぼから助け出してくれた。

父ちゃんの背中に、ぼくはしがみついた。

背中のゴツイ骨があたった。農民のたくましい骨だ。

父ちゃんは、ゆっくりと歩き始めた。

母ちゃんが、ぼくの額についた泥をぬぐってくれた。

「銀も黄金も玉も何せんに。まされる宝、子にしかめやも」

母ちゃんが節をつけて唄ってくれた。

ぼくには何ていい父ちゃんと母ちゃんがいるんだらう。

「幸せの色って、見えないんだね」

父ちゃんと母ちゃんが、少しおどろいたように足を止めた。

三人で、

フフフフ

と笑いあった。

そして、また、ゆっくりと歩きはじめた。

心の色

私は、熊本で育ちました。被災者のみなさんが、たくさんおむすびをたべられますように！ この本を読んだ方は、熊本に義捐金を送ってください。

色彩福祉士の かねことしこ が、みなさんの幸福の色のために、贈ります。

2016年4月18日

銀も黄金も

<http://p.booklog.jp/book/105987>

著者：かねこ としこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/colorful-koneko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/105987>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/105987>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ